

VI. 地域活動の事例紹介

ここでは、地域で実際に活動している地区や町会の具体的な事例をいくつか紹介します。

事例紹介地区・町会

- ① 地域の未来のために (入山辺地区町会連合会)
- ② 世代を超えた地域づくり (神林地区町会連合会)
- ③ 誰もが参加できる町会 (庄内地区並柳団地町会)
- ④ 助け合いと憩いの場づくり (城北地区徒士町町会)
- ⑤ いざという時のために (白板地区白板南、白板中、白板宮本町会)

❶ 地域の未来のために ～入山辺地区の「こんな山辺にするじゃん会」～

◆ 取組み内容

地区住民が主体となり「入山辺地区の将来ビジョンを考える会（愛称：こんな山辺にするじゃん会）」を組織し、地区の資源を活かした地域づくりについて、毎月定期的に集まり地域の将来を話し合い、松本大学と連携しながら活動をしています。地区の魅力を発信する案内看板作りや、休耕農地を活用したもち米作り、高齢者支援のためのアンケート調査などに取り組んでいます。

◆ 取組みのきっかけ

地区の少子高齢化と人口減少への危機感から、地域の未来を考え自分たちにできることを始めようと、この会が発足しました。

◆ 成果

最近では若者の参加も増えており、様々な意見を取り入れた活動を行っています。地域の資源を再発見し活用していくことで、地区の活性化につながっています。



② 世代を超えた地域づくり ～神林地区の松本山雅FC支援～

◆ 取組み内容

サッカーJ2の松本山雅FCを地区で応援するため、「神林山雅の会」を結成し、世代を超えた交流を進めています。山雅の応援旗を地区内に掲げたり、道路のゴミ拾いなどのボランティア活動を行っています。

◆ 取組みのきっかけ

松本山雅FCのホームグラウンド「アルウィン」の所在地区として、地区を挙げて応援するため結成されました。

◆ 成果

応援を通じた世代間交流により、子どもから高齢者まで世代を超えたつながりができ、顔の見える絆づくりの一翼を担っています。



③ 誰もが参加できる町会 ～並柳団地町会の国際班組織～

◆ 取組み内容

並柳団地町会は、県営並柳団地17棟、19組からなる町会です。住民の高齢化が進む中、若い方たちの力を活かすため、町会役員を30～50代を中心に組織することで世代交代を進めています。また、松本地震を契機に、居住する外国籍の方たちとの繋がり的重要性を感じ、町会に「国際班」を組織して外国籍住民への回覧板情報を翻訳するなどの活動をしています。

◆ 取組みのきっかけ

住民の高齢化による課題の増加や、松本地震の発生をきっかけに、若者や外国籍の方を町会活動に取り込むため始まりました。

◆ 成果

町会役員に若い世代の起用や、「国際班」を組織したことで、外国籍住民が町会に加入し、新しい発想や意見を取り込むことができ、町会活動の活性化につながっています。



4 助け合いと憩いの場づくり ～徒士町町会のおかちまち市場～

◆ 取組み内容

毎週木曜日の午前9時から、商店の協力を得て定期市を町会主催で開催しています。野菜や魚などの生鮮食品のほか、パンや菓子など多くの商品を販売しています。お茶飲み場も設けており、買物客など地域住民の憩いの場となっています。



◆ 取組みのきっかけ

近所の食品スーパーが閉店して以降、高齢者を中心に近くで買い物ができず困っている人が増えたことから、町会が商店などと協力し、定期市を始めたことがきっかけとなりました。



◆ 成果

近所で買い物ができるようになるとともに、顔を合わせた住民同士でお茶を飲みながら世間話ができるなど、地域住民の憩いの場にもなっています。

5 いざという時のために ～白板3町会の合同防災訓練～

◆ 取組み内容

白板地区の白板南、白板中、白板宮本の3町会は、合同で1年おきに防災訓練を実施しています。指定避難場所である田川小学校の校庭と体育館で、消防署職員の指導のもと、消火器訓練や炊き出し訓練などを行っています。



◆ 取組みのきっかけ

白板3町会は地理的に密接であり、行事などで日頃からコミュニケーションが取れていました。想定される災害が共通なこともあり、合同での防災訓練が始まりました。



◆ 成果

3町会が合同で防災訓練を実施することで、参加人数の確保ができるとともに、地域住民間で災害に対する共有認識ができつつあります。